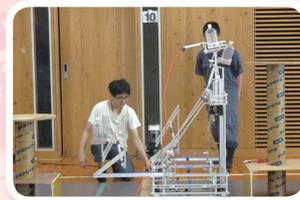




沖縄高専だより

National Institute of Technology, Okinawa College



目次

1. 校長より	2	8. 学生会・寮生会より	11
2. 卒業生へ贈る言葉	3	9. ロボット製作委員会	12
3. 卒業にあたって	4～5	10. グローバル交流推進センターの活動紹介	13
4. 学年の学生の様子	6～7	11. 就職・進学に向けた活動状況報告	14～15
5. 修了生に贈る言葉、後援会会長挨拶	8	12. インターンシップ体験記	16～17
6. 修了にあたって	9	13. 就職・進学・志願状況、 平成31年度学生募集結果一覧	18～19
7. 第14回高専祭	10	14. 平成31年度(前期)行事予定表	20



沖縄工業高等専門学校
校長 安藤 安則

校長の安藤です。この度の卒業・修了、誠におめでとうございます。また、保護者の皆さんをはじめ、後援会、沖縄高専産学連携協会の皆様方には、平素より沖縄高専の教育、研究にご理解とご協力を頂き、深く感謝いたします。

さて、世界的な動向をみますと、米国トランプ大統領の強硬な政策に基づく米中貿易戦争による経済的混乱が拡大し、英国の合意無き EU 離脱が現実性を帯び、また中国や北朝鮮による近隣諸国への脅威等は今年も引き続き大きな懸念事項となり、先行き不透明感が強まり、注意深く見守ってゆく必要があります。

観点を改めて我々の身近について考えますと、今年は日本の元号が平成から新しい元号に移り、新元号元年となり、新しい天皇が即位される特別な年になります。

また、日本が直面する「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」、「働く人々のニーズの多様化」等の課題に対応すべく、今年 2019 年 4 月 1 日から「働き方改革法」が施行されます。これは、其々の人が多様な働き方を選択できる社会を実現することにより、日本全体の経済成長と分配の好循環を築き、一人一人がより良い将来展望を持てるようにすることを目指していると聞いています。つまり、これから実社会へ出てゆく人は、従来とは異なる、多様な働き方の選択ができる時代に参入して行く事になります。しかしながら、それを実現するためには、グローバル化がより深化した現代の企業・研究機関などは、其々の専門分野の知識の上に AI やデータマイニング等の情報応用テクノロジーを身に付けた人材を求めている事を念頭に置く必要があります。

沖縄高専は開学以来、人材育成と地域貢献を重要なミッションとして取り組んで参りました。前述の国内外の大きな変化の下で、沖縄高専は、前途ある有能な学生を迎え入れ、沖縄高専の特長ある工学教育を実践し、企業や大学・大学院等へ卒業生を送り出してゆく事を大きな目標としております。特に厳しい競争社会の中で強く生き抜ける人材育成を教職員一丸となって推進する所存でありますので、保護者の方は勿論、沖縄高専産学連携協会等の関係各位の皆様方のご協力を宜しくお願いいたします。

結びに、旧年にも増して関係各位に本校の教育・研究にご理解を頂き、更なるご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げまして、私のご挨拶といたします。



機械システム工学科

政木 清孝

機械システム工学科 11 期生みなさん、ご卒業おめでとうございます。機械システム工学科 11 期生の担任として、無事に卒業式を迎えられたことを心から嬉しく思います。本来ならば副担任として君たちの成長を陰ながら見守り続ける予定でしたが、浜松で特上鰻重の賞味中に貴君らの担任に任命されました。それは「偶然」なのか、それとも「運命」だったのか、鰻の蒲焼き発祥の地とされる旧浦和市（諸説有り）で特上鰻重を味わいながら小一時間考えてみました。

担任としていつも考えていることは、学生の自主性を尊重することです。学生が計画したことに対して、担任が口を挟むことはせず、最後まで学生が責任を持って取り組んでくれるようにと陰ながら支えてきました。それには、最後には担任が全責任を取るという強い覚悟が必要です。そのおかげで、クラスマッチ、高専祭、研修旅行など、数多くの楽しい時間を共有してもらいました。就職・進学活動をサポートしているとき、「なんのために勉強するのか？」という問いに対するひとつの答えを見つけました。卒業は人生のひとつの岐路に過ぎません。近い将来に再び新たな人生の岐路に立たされると思いますが、そのときに自分の中にどれだけの「選択肢」が用意されているか、普段からの勉強はその「選択肢」を増やすためにするのだと。沖縄高専で5年間学んできた貴君らの中には、現在どれだけの「選択肢」が用意されているでしょうか？今後も沖縄高専の卒業生であることを誇りに思い、自分の信じる道に向かって邁進してください。

さて、「偶然」と「運命」。「偶然」は自分の意志とは無関係ですが、「運命」は自分の意志で変えることができます。鰻重を食べていたことは「偶然」ですが、11 期生の担任をしているなかで大きな問いに対するひとつの答えを見つけられたということは、「運命」だったのだと私は信じます。未来は君の中に、貴君らの未来が明るいものでありますように。



情報通信システム工学科

神里 志穂子

「沖縄高専」で過ごした5年間は、皆さんにとってどんな時間だったでしょうか。勉強や課題で大変な事ばかり、苦しい事ばかりでしたか？仲間とたくさんの試験をどう乗り切るか支え合って、励ましあって過ごした時間も、今はいい思い出でしょうか？

皆さんと過ごした私の5年間は、毎日、毎日皆さんをガミガミ怒っていたと思います。これまで生きてきた中で、こんなに怒ったことはないくらい、常にお説教していた思い出ばかりです。先生達も皆さんを成長させるためにいろいろな講習を受けますが、私は5年前受けた講習の中で、「しっかりと学生を怒れる先生になりたい。」という目標を立てました。皆さんにとって、私は皆さんのことをしっかりと指導できる担任になれていたでしょうか。毎日が不安の連続で、でも皆さんを怒る以上に一緒に笑って、一緒に話をした皆さんの時間で元気をもらい、担任としての気合いをもらっていました。常に油断させてくれない皆さんですが、日々成長し、努力を続けている皆さんの傍にいて、辛い、悲しいと思った事は1度もありません。教員としてこんなに幸せなことはありませんね。ありがとう。「5年間この学校で頑張れただけですがいいこと」ある学生が、保護者に伝えてくれた言葉です。私もそう思います。卒業する皆さんは、それを成し遂げたのです。疲れた時、辛くなった時は、少し休んでもいい。気持ちを充電して、自分が闘える武器を増やし、またチャンスがきた時に力を発揮できるようにすること。私からの最後のアドバイスです。もう、大丈夫ですね。この先、皆さんができることがたくさんあります。「皆は、だめじゃない！」さあ、次のステージへ、自信を持ってチャレンジして下さい。卒業おめでとう。



メディア情報工学科

鈴木 大作

メディア情報工学科 5 年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。5 年前の春、希望に満ち溢れて始まった高専本科生の生活もついに終わりを告げ、春より新しいそれぞれの生活が始まるようとしています。楽しかった友人との生活や部活動、苦労した勉強や研究、様々な思い出を胸に、皆さんはどのような気持ちで卒業の門出を迎えられましたでしょうか。

多くの皆さんは、今年 20 歳の成人式を迎えられ、人生において大人としても新しいスタートの節目を迎えられたことと思います。成人式では、久しぶりに会う友人と再会し、過ぎ去った懐かしい思い出に浸ると共に、卒業してから歩んできたそれぞれの道を語り合いながら、自分自身の高専生活について振り返る機会があったことと思います。5 年間で歩んできた道は、友人と語り合い景色を楽しみながら歩んだ平坦な道、汗かき苦しい思いをしながら歩んだ峠の長い登り道もあれば、爽快に走りながら駆け抜ける草原の下り道もあったのではないかと思います。時には乗り越えられないほどの高く険しい岩山に遭遇し、その前で震え立ちずむこともあったかもしれません。人それぞれ歩む道は異なれど、人生という旅においては、歩んだ本人にしか味わえない喜びと楽しみ、そして何よりも苦難に立ち向かったからこそ得られる自分自身の成長と将来への希望があることを、皆さん自身が振り返って感じられたのではないのでしょうか。旅はまだまだ始まったばかり、新しく出会う旅の友と意気投合し、時には再開する親友との懐かしい思い出に浸りながら、これからも人生という長い長い旅を謳歌してほしいと思います。

最後に、5 年間という短い旅でしたが、皆さんと出会え過ごせたことをうれしく思うと共に、何よりも私自身を成長させ希望を与えてくれた皆さんに深く感謝いたします。また旅のどこかで再開できる日を楽しみにしております。



生物資源工学科

池松 真也

生物資源工学科 11 期生の皆さん、卒業おめでとうございます。私は皆さんが3 年次より副担任とさせていただき、急遽5 年次には担任を務めさせていただくことになりました。何度か個人面談をさせていただき、皆さん一人一人の私にとって意外な面も発見することができました。そう、みんなが素晴らしい一面を持っているのです。是非、次のステージでその部分を伸ばして行ってください。最後にルイ・パスツールの言葉として広まっている次の成句を贈り旅立ちを応援します。Chance favors the prepared mind (le hasard ne favorise que les esprits préparés) . Ciao !

<井口先生より>

生物 11 期生の皆さん、卒業誠におめでとうございます！私は皆さんが5 年生になる前に異動することになり、非常に心苦しかったですが、池松先生を始め、経験豊富な先生方のご指導の元で、実りある研究室ライフを過ごされたものと思います。今後皆さんには、ぜひ2 つのことを大事にしてほしいです。一つ目は「本質を常に考える」ことです。「本質」とは何かを伝えるには難しいですが、「大事にすべき」と自分で思えることを大切にすることかもしれません。二つ目は「感性」を大事にすることです。それはおそらく、当たり前前に笑ったり泣いたりできることかな、と思います。2 つと書きましたが、どちらも共通して言えるのは、「自分に素直でいられること」でしょうか。年を取ると意外とこれが難しいかと思いますが、これができる人生いろいろ豊かになる気がしてます。今後皆さんが多くの豊かさに恵まれますよう、うーとーとー。

卒業にあたって



機械システム工学科

比嘉 悠人

「高専生活意外と短かった!」「もうちょっと学生でいられたらな〜」など、私の周りでこう呟くのを聞くようになりました。私自身も入学前は、5年間もの高専生活長そうだな〜。などと呑気なことを考えながら過ごしていましたが、今思うと本当に長いようで短かった高専生活だと思いました。

個性豊かで志を高く持つ学生に囲まれていたため、入学したての1年生の頃は皆と仲良く過ごせるのか不安のあまり、私も個性を作りつつ一生懸命存在をアピールしていたのがいい思い出です。また、授業についていけるのだろうか、寮では問題なく過ごせるのか、などと漠然とした不安も多くなりましたが、無事に卒業を迎えることができました。体育祭や高専祭、研修旅行にインターンシップなど、様々な経験を積むことができたのも私のかけがえのない思い出であり、今も一つ一つの出来事を鮮明に覚えています。黒歴史も多くありますが、それも丸ごと含めても沖縄高専で学生生活を過ごすことができて、本当に良かったと感じております。

卒業後は沖縄を離れ、関東の大学に編入学します。まったく新しい環境に再び身を置くことになり、正直楽しみよりも不安の方が大きいですが、沖縄高専で培った知識や経験をフルに活用し無事に過ごせるよう努力していきたいです。将来、沖縄の産業振興に貢献できるような技術者になるために、大学でも学業と研究に一層取り組んでいきます。

最後に、共に過ごしてきた友人やお世話になった教職員の方々、そして何より、私を育ててくれた両親に深く感謝申し上げます。



機械システム工学科

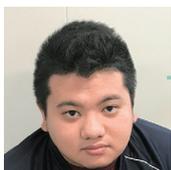
西野 颯馬

私は入学当初は周りを見ても誰も知らない、友達もいない、そのような状況で緊張と不安でいっぱいでした。また、中学校が田舎だったことで「気が合うかな〜」と考えていました。始めは、シャイな部分もありあまり友達はできなかったのですが、日々時間を重ねていくことで「あ、この人たちはすごくいい人だな〜」と思えるようになり、気が合う友人もでき学校生活を楽しく過ごすことが出来ました。私が5年間在学して感じたことは、やはり、高専という学校だけあって入学するには高い志を持った人たちが受験し、また興味のある学部を選択しているため中学校の時よりも自分に気が合った人間関係が作りやすかったのではないかと感じます。また5年間ということで信頼関係も高まり、すごく貴重な友好関係が築けたと思います。

勉強面では、私はとても苦労しました。はじめは周りとの勉強意欲、レベルのギャップがあったと思います。しかし、諦めずに勉強し友人や先生方のフォローもあり、また勉強に時間を費やすことで勉強方法のレベルも上がり、今では自分から取り組めるようにまでなりました。これは私にとってとても大きな財産になったと思います。

バイトや遊びなどの勉強以外の時間は適度に過ごせたと感じます。長期休みは長いですし祝日も多く、自分の趣味ややりたいことに打ち込めることができました。

高専に入学した事が昨日のことのように、高専在学中の5年間がとて早く感じます。最後になりますが今までお世話になった教職員の方々、クラスメイト、両親、本当にこれまでありがとうございました。



情報通信システム工学科

喜屋武 昇馬

高専に入学してから、あっという間に卒業の時期になってしまいました。楽しいことよりも苦労したことの方が多くて大変でしたが、今思い返してみると充実した5年間だったと思います。

高専生活の中で思い出に残っていることは1年生のときの最初の高専祭で、先輩たちが凄く面白くて高専に来て良かったと一番実感できた瞬間でした。あと寮生会の委員会活動を通して多くの先輩や後輩たちと関わることができたことも良かったです。逆に苦労したことは英語の講義で、勉強しても点数が取れないことがあり単位を落としたことがありました。そして学年が上がるにつれて専門科目の講義の内容が難しくなって勉強についていけなくなり、それが理由で学校を辞めようかと悩んだこともありました。

他にも色々なことがありましたが、そんな高専生活を通じて個人的にはかなり成長できたと思います。最初は人と接することが苦手だったのですが、5年間色々な人と関わっていく内に自然とできるようになりました。また寮に入り自立することの大変さを知り、両親のありがたさも実感できるようになりました。

最後になりますが、ここまで続けられたのも高専の教職員の皆さん、親しくしてくれた友人、そして両親の支えがあってこそだと感謝の気持ちでいっぱいです。4月からは県内の大学に進学しますが、そこでも高専で育んできた教養と人間性を活かして、これからも頑張っていきたいと思っています。



情報通信システム工学科

城田 璃々

あっという間に5年間が過ぎ、もう卒業する年になってしまいました。高専では同じ中学校からの友人もおらず、1からの人間関係を作ることになってしまったため、最初はとても不安でした。しかし、優しい友人達に恵まれ、高専生活を楽しく過ごすことができました。

高専では色々なことにチャレンジする機会がありましたが、私は特に学生会での活動を頑張ってきました。4年の頃には学生会総務局で局長をさせてもらいましたが、インターンや課題に追われている中で総務局活動はとても大変なものでした。そこで先輩達からアドバイスをもらったり、後輩達に仕事を手伝ってもらったりしながら、無事に1年を終えることができました。頼れる先輩や後輩に出会うことができ、学生会総務局をしたことは私の学生生活にとっても貴重な経験になりました。

また高専でできた友人達とは色々なところに遊びに行くことも多かったです。それ以外にも学校での悩みの相談に乗ってくれたり、共に課題や定期試験を乗り越えたりしてきました。こうやって考えると、先輩や後輩・友人にとっても恵まれた5年間だったと思います。

最後になってしまいましたが、この5年間厳しくも優しく見守って指導してくれた教職員の皆様、辛い時に協力しあってくれた大切な友人達、これまで育ててくれて高専に通わせてくれた両親に感謝の言葉を伝えたいです。今までありがとうございました。



メディア情報工学科

小濱 ちひろ

私が高専に入学してから早いもので5年が経ち、いよいよ卒業が近づいてきました。入学当時は、親元を離れて初めての学校と寮生活が始まり、これから沖縄高専で5年間を過ごすということを、とても不安に思っていました。しかし、5年が過ぎてみると、この5年間で高専でしかできない、たくさんの貴重な経験ができたと感じています。

5年間を振り返ると、心配していた学生寮では同級生と指導してくれる先輩と朝から晩まで一緒に過ごしていたため、すぐに打ち解け、友人たちと一緒に過ごした2年間の寮生活は私にとって、とても楽しく、かけがえのない時間になりました。また、私は入学してから部活動でテニスを始めて、5年間続けてきました。新しい仲間たちと切磋琢磨して練習してきた時間は、大切な思い出であり、また、ここまで続けてこれたのは、それほど周りの人たちが環境に恵まれていたと改めて感じています。また、学校生活では、定期試験や進路決定、卒業研究など大変なこともありましたが、共に支えあい、乗り越えてきた友人たちに出会えたことに感謝しています。

春から私は、就職することになりますが、5年間で学んだことを活かして社会に貢献できるように、立派な社会人になれるように、日々精進し、頑張りたいと思います。

最後に、5年間お世話になった友人や教職員の方々、そして、ここまで育ててくれた両親に感謝を申し上げます。ありがとうございました。



メディア情報工学科

大城 椋也

沖縄高専に入学してもう5年が経とうとしています。あの頃の流行語大賞は「ダメよ〜ダメダメ」「集团的自衛権」の2つや、小保方さんSTAP細胞、野々村元議員の記者会見もこの頃です。これらもつい最近のように思えます。

入学当初は、友達ができなかったり不安でしたが、幸いにも同じ中学からの同級生もいたのでよかったです。クラスは別々になってしまったけど、クラスメートにも恵まれてすぐに友達ができ、部活動でも友達が増え高専1年目はいいスタートがきれました。寮生活では、同じ階の友達と夜食でワイワイしたり、試験前にはみんなで集まって勉強会を開き教えあひながら楽しく試験勉強が出来たと思います。高専には自分より勉強できる人がたくさんいて不安になることもあったけど、逆にわからないところがあればその人達にすぐに聞けるし、教えてくれる良い環境であると考えたと楽になりました。

2年には1年の頃よりも積極的に学校行事に参加することで、クラスメイトともっと仲良くなれたと思っています。3年生からはいよいよ学科ごとのクラスになり、5年間一緒にいる人や、これから3年間過ごす人、一度もクラスになれなかった人が決まります。3年生で初めて話した人も今は仲良く過ごせてよかったです。

これからは卒業して、それぞれ新しい仕事や学校生活が始まり大変になると思うけど、落ち着いた時にまた集まれるように努力したいと思います。

これまでの文を読んで、書いていることがゴチャゴチャして何が言いたいのかわからなくなってきました。たぶん導入が良くなかったと思います。

最後に、高専の5年間は長いようで短いようでやっぱり長かった、でもあつという間みたいな5年間でした。この5年で得られたすべてをこれらの社会人生活に活かせるよう努力していきます。高専で関わってくれた教員や学生、家族親戚すべての人に感謝します。ありがとうございました。



生物資源工学科

平良 幸樹

実家を離れ寮で生活をしながら学校に通う、という中学校の同級生の中では少し特殊な生活になることへの期待をもって入学した5年前の入学式、気が付けば卒業を迎える年になったことに驚いています。この5年間の学生生活では沢山の思い出ができました。

1年生から3年生までの間は、「とにかく科目の単位を取らない」と意識して勉強していました。寮生活でしたので、テスト前には友達と一緒に勉強し、楽しくない科目の勉強や赤点の危機を乗り越え、今では学生時代の良い思い出だなと思います。4年生からは寮外生となり、アルバイトと学校の両立を目指し、就職活動や卒業研究を乗り越えました。

就職活動は、結果からみると一本道でインターンから内定を頂くまで進みましたが、その道中は不安でいっぱい、友達が内定を貰う度にヒヤヒヤしていたのを覚えています。卒業研究でも、1年間1つのテーマと向き合い、毎週継続して実験を続けていくのは難しかったです。継続をする事はどんなことでも大変だなと実感しました。

卒業が近づくと同時に、5年間共に学んできた友達との別れが近づいています。2年生までの混合クラスで知り合った他学科の友達、3年生からの学科別クラスで更に仲良くなれた生物資源工学科の友達、大切な宝物を得ました。これから先、就職や進学で日本各地に皆散らばってしまうため、なかなか会う機会が作れなくなるのが残念で寂しいです。だけど、新しい場所での生活を楽しみながら社会人としてお互いに成長し活躍することを目指して頑張りたいと思います。

この5年間、両親を初めとする沢山の方々にお世話になりました。支えてくださり、ありがとうございました。



生物資源工学科

山中 美瞳

沖縄高専に入学した当時はとても長いと思っていた5年間で、気づけばもう終わろうとしていることに驚いています。5年前の4月に新しい場所、新しい仲間と始まる高専生活に、楽しみと不安を抱えながら入学式を迎えました。学科別では半分以上いる女子が、クラスになると10人しかいないことにも慣れるまで戸惑いましたが、すぐに打ち解けていき、友人との楽しい生活で充実し、気づけば不安は無くなっていました。

この5年間は、生活面で大きく変化したと感じています。3年生まではサッカー部にマネージャーとして所属し、4年生では高専祭実行委員会会計局長、5年生では学級長をさせていただきました。ルールもわからなかった部活へ入ったり、人前に立ち、みんなをリードする役はあまりしてこなかったもので、新しい挑戦ばかりでした。うまくいかないときも周りの支えや応援があったおかげで乗り越えることができました。そのおかげで、入学当初よりも積極的に挑戦するようになったので、私にとって大きな成長だと感じ、この環境と周りの方々に感謝しています。

その反面、学会や実験など、高専にしかないチャンスにも取り組むことができていたら良かったなと少し後悔しています。卒業間近の今、高専生だからこそその挑戦ができなかったことはもったいなかったと感じますが、この後悔も今後活かしたいと思います。

私は4月から県外で社会人として歩み始めます。もう学生ではなくなることにまだ驚きを隠せません。高専生活ではチャンスを逃してしまいうこともあったのですが、今後チャンスが巡ってきたときは、積極的に取り組んでいきたいです。新たな環境でも、高専生活で得たことを成長の糧として活かし、頑張りたいと思います。この5年間はどの学生生活よりも楽しく充実しており、沖縄高専の学生で良かったと思います。

最後になりますが、この5年間支えてくれた先生方、友人、母に感謝しています。本当にありがとうございました。

学年の学生の様子



第1学年主任より

第1学年主任
総合科学科
3組担任
青木 久美

平成30年度1年主任の青木です。いつもお世話になっております。

あっという間の1年間でした。

本日、私が担当するクラスでは、最後のLHRを行いました。大掃除が終わって、最後の挨拶が終わった後も、名残惜しそうに席を離れない学生がたくさんいました。1年間、楽しいことばかりであったとはいえませんが、だからこそ、力を合わせてやり遂げたことが忘れがたい思い出として残っているのだと思います。

1年生にとって、一番大変だったのは初めての高専祭だったと思います。中学までの文化祭とは異なり、高専祭の運営は、「高専祭実行委員会」を中心に、学生の自主性に任されています。1年生のクラスの出し物は、1組が縁日、2組と3組が屋台、4組がお化け屋敷でしたが、これほどのイベントを成功させるためには、クラスの一人一人に、高専祭を成功させようという意思と協調性が必要ですし、クラス全体をまとめる役には強力なリーダーシップが必要になってきます。なかなかまとまらないクラスもあったとは思いますが、結果的には、どの出し物も、大盛況のうちに終わることができました。このことは、学生一人一人の自信、そして高専生としての再度の自覚に繋がったことと思います。クラスメートとの友情を深めることができた学生もいるかもわかりません。

高専祭のあとは、慌ただしく中間試験、中間試験が終わってしばらくすると冬休み。冬休み終了後はまたすぐに期末試験というスケジュールでしたので、学生には、初めての高専祭を無事に成し遂げたことを祝う間もなく、勉強に追われ始めたことと思います。実際、高専祭が終わると、学生の表情が変わり始めます。学生が再び「自分のことだけで精いっぱい」になる時期です。

もちろん、高専生活で一番大切なのは勉強です。ですが、勉強だけができればいいというわけでもありません。1～2年の混合学級で築いた友情、思いやりの精神、協調性などを忘れず、むしろ成長の糧として、これからも頑張っていってほしいと思います。



第2学年主任より

第2学年主任
総合科学科
3組担任
下郡 剛

後期は、大きなイベントとして高専祭を行いました。どうだったでしょうか？当日に至るまでは、クラスの役員を中心にみんなで協調協力しつつ、準備を進めていたのが印象的でした。また高専祭当日には、多くの楽しそうな顔に出会い、教員としてうれしい気持ちでした。怪我なく終了できたことも良かったです。皆さんにとって、良い思い出になっていれればいいです。ちなみにぼくも、少年時代の淡い思い出に触れることができ、特別に楽しかったです。

さて、混合学級で過ごしてきた高専生活もいよいよ終わり、来年度からは学科別でのクラス編成となります。それに伴い、授業における専門科目の比重もいよいよ高まってきます。皆さんも知っているとおり、高専は高等教育機関です。職業訓練学校ではありませんから、一般科目もしっかりやってもらいます。しかし、だからといって、皆さんは一般科目を勉強するために高専に来たわけではないだろうとも思います。これから、より深く、自分が選んだ専門の領域に踏み込んでゆける喜びと緊張感をもって、新年度に臨んで欲しいと希望します。

自分が進んでゆく方向性がまだ見えない人は、何度も言っているように、なるべく早く見つけてください。勉強をする理由があるかないかで学生生活ははるかに変わってきます。

最後にもう一つ。正課の勉強以外に、一生懸命になれるものを是非一つ、この学生生活で見つけてください。部活動・学生会活動・ロボコン・プロコン等々なんでも結構です。やらなければならないことを頑張ったのと、無理にやらなくても良いのだけれど、敢えて自分で選んだ一つの道を頑張ったのでは、同じ「頑張った」でも意味が違ってきます。後から学生生活を振り返った時、とても良い思い出になります。頑張り切れたという自信にもつながります。その自信が次のステップへの原動力になりますし、苦しくなった時に自分を支えてくれます。あの時頑張れたのだから、今回だって必ず乗り切れるはずだと、過去の自分が、苦しい今を支えてくれるようになります。未来の自分を支える力を是非今、培ってください。



第3学年主任より

第3学年主任
機械システム工学科
第3学年担任
下嶋 賢

13期生の皆さん、高専生活の3年目が終わろうとしています。

3年生は、これまでの混合学級から、初めて専門に分かれるクラスとなり環境が大きく変わります。講義もこれまで一般科目が中心であったが、専門科目の比率が高まります。学生寮にとどまる学生や、学生寮から出て自宅やアパートから学校に通う学生もいるようになります。年齢が18歳を過ぎ、自動車運転免許を取得する学生もいるようになります。長期の休みの期間にアルバイトを始める学生もいるようになります。

沖縄高専のキャリア教育では、3年生は将来目標（キャリア）を策定する大切な1年としてとらえています。通常5年生で就職を希望する学生は、5月末にはおおよその進路が決定しております。そこを目標ととらえると3年生は折り返し地点を過ぎたところにおり、将来の進路を決める上での大事な期間と言えます。研修旅行や業界研究会への参加は、次年度のインターンシップや将来の就職活動に向けての準備としており、有意義な活動ができたでしょうか。残り的高専生活および卒業後の有意義な時間を過ごせるように、日々研鑽を図ってください。



図. 13期生の研修旅行におけるANA整備場の見学の様子



第4学年主任より

第4学年学科主任
機械システム工学科
第4学年副担任
眞喜志 隆

機械システム工学科第4学年の副担任で4年学年主任を担当しております眞喜志隆と申します。今年度第4学年の様子を紹介いたします。

第4学年では学修方法が大学など同様の単位認定となります。第3学年までは90分授業30コマで2単位と評価しますが、第4学年からは90分の講義15コマで2単位となり、進度が早く、より予習復習の自学自習時間の使い方が重要になります。これまでに十分に自学自習の習慣をつけているとは思いますが、今一度生活習慣を見直してみてください。

第4学年で重要なことは、将来の進路に向けての活動が本格化することです。本校は開校以来4年次でのインターンシップを必修科目として行っています。4年次学生は前期中にインターンシップの講義で、インターンシップ先企業や大学、研究機関の選択と申し込み、企業研究やビジネスマナー講習を受講して後、夏休み期間中にインターンシップ先企業で1～2週間の実習を体験します。今年度は複数のインターンシップ先に行く学生も多いように感じました。後学期には、派遣先企業からの評価と合わせて、インターンシップ先での体験を発表し、報告書を制作して体験した内容を今後の進路選択に活かすようにまとめていきます。また今年度は12月、年明けの1月と2月に県内外の企業の合計130社に参加して頂き合同の業界研究会を行い、進路選択や実社会で働いていくことがどのようなものかの理解を深めていきます。また、年明けからは個々の企業の会社紹介や企業研究が数多く開催され、3月からは本格的な進路活動が開始されます。最近は売り手市場といわれており、本校にも400以上の企業から求人が届きますが、学生自身の目的意識がはっきりしていないと不採用というケースも少なくありません。今後の企業研究などを通して、本校に入学した時の気持ちを再確認してください。

保護者の皆様におかれましても、学生諸君の進路選択の際には様々な支援をお願いする事となります。特に、ご家庭では今後の進路について、学生諸君との会話をお願いいたします。4年担任団と致しましても、学生諸君が力を発揮できるように支援してまいります。疑問点やお知りになりたいことなどがあればご遠慮なく担任や副担任、その他の教職員にお尋ねください。今後ともより一層のご支援とご理解をたまわりますようよろしくお願いいたします。



修了生へ贈る言葉



専攻科長 谷藤 正一

専攻科修了生の皆さん、おめでとうございます。本科も含めた高専生活の7年間、皆さんにとって長かったですか？ それとも、あっという間でしたか？ 自身が歩んできた道を振り返る時、何もしていなくても過ぎてしまう時間の流れを感じられることでしょう。沢山のことを感じ、悩み、考え、実行し、反省してきたものと思います。皆さんが手にしているディプロマは、決して飾りではないはずです。同じ校舎、同じ先生なのに、要求されるレベルが格段に高くなったことも納得できるのではないかと思います。決して自分の実力には言い訳をしないでください。進学する学生はもちろん分かっていると思いますが、就職をするにしても、これで学びの時間は終わったなどは考えていませんよね？ まだまだ始まったばかりです！ それでも、この高専生活で、これからの学びに立ち向かう準備はできているはずです。自学自習の時間は、有効に使えましたか？ 自分で勉強するという時間の中には、様々な技術や情報を利用して、社会の要求や課題を解決できる能力や、やるべきことのスケジュールや進捗管理などのプロジェクト遂行能力、そしてチームで活動できる能力も磨かれたものと願ってやみません。それに今度は、もうすぐ皆さんが教える番です。そんな時に頼れるのも、やはり自身の経験です。他の人には教えたくない程の素晴らしいノウハウも蓄積されているのではないのでしょうか？ しかしながら、過去にやったことばかりに胡坐をかいていたのでは、古くなって錆び付いてしまうこともあります。学び続ける努力を忘れずに、常に自分自身をアップデートすることが大切です。勉強を継続できる習慣は、自分自身をコントロールできる自己管理能力にも繋がります。そんな人としての姿勢が社会では問われます。勉強は、単に知識の詰め込みではありません。目標を持って、自分を正しくコントロールするための良い練習と言えるでしょう。最後に、常にこうありたいと思っている恩師の Mohammad Madihian 先生の言葉を贈ります。 Read more, Do more, Learn more! Diligence brings intelligence!! 皆さんの更なる飛躍に期待します。

後援会会長挨拶



沖縄工業高等専門学校後援会

会長 崎山 敏雅



H30.9月 南部支部 BBQ

この春、めでたく沖縄高専を卒業ならびに修了される学生の皆様、そしてこれまで彼らを支えてこられた保護者の皆様に心よりお祝いを申し上げます。

時の流れは早く、緊張に包まれながら沖縄高専に入学した日がついこの前のこのように感じていらっしゃるかと存じます。私事ですが、昨年、長女が沖縄高専を卒業しました。卒業する前は就職先の住い探しや家具の調達と慌ただしくも淡々と過ぎており、実際に卒業式を迎えるまで感慨にふけることはありませんでした。卒業後10日足らずで彼女は沖縄を離れ、私の寂しさや心配をよそに、元気で働いております。

振り返れば、沖縄高専の入学式で学生寮に入っていき姿を見送った日も私は同じ気持ちでした。入学以来、長女は多くの先生方と先輩と寮の仲間にも助けられながら成長して参りました。同時に、住み慣れた環境を離れて新たな場所で、自力で人間関係を構築しながら将来の進路を自ら切り開く方法を沖縄高専と学生寮で学ばせて頂いたと感謝しております。

そんな長女に影響を受けて次女も沖縄高専に入学しておりますが、娘たちの入学をきっかけに、私は沖縄高専後援会の那覇支部の総会で理事や他の保護者の方々との出会い、自然と支部活動をお手伝いするようになり現在に至ります。支部活動や理事会を通して、先輩保護者の貴重な経験を伺ったり学校の先生方と直接お話ししたりする機会に恵まれました。このことは娘たちと離れて暮らす私の心配や疑問を解消することに大いに役立っております。

さて、本年度も後援会は学生たちの課外活動や教育・研究事業・進路指導を支援して参りました。そして多くの学生たちがそれに応えて輝かしい実績を残してくれました。これもひとえに会員の皆様の深いご理解と長きに亘るご協力があったからこそ、厚く御礼申し上げます。

今後とも引き続き、沖縄高専の学生たちの活動・活躍に関心・期待をもって下さり、後援会事業にご理解ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



H30.4月 浦添支部総会



H30.4月 那覇支部総会



H30.8月 那覇支部 BBQ



H30.9月 宮古支部 BBQ



機械システム工学 コース

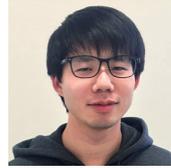
大城 涼麻

私が沖縄高専に入学したのは、7年前のことでした。私が沖縄高専に進んだ理由は兄が通っているから、家から近いからというだけの理由でした。そんな、なんとなく選んだ学校に7年も通っていたということに今更ながら驚いています。小中と人数の少ない学校で育ってきた私にとって沖縄高専という場所は今まで考えたこともないほどたくさんの同級生や先輩方のいる場所でした。そして、今まで経験することの出来なかつたたくさんのことを経験させてくれる場所でした。そんな場所で、同級生達と楽しく過ごせて良かったと思いつつ、それがもうすぐ終わり、また違う場所に行くのだと思うと感慨深い気持ちになります。

入学してからは部活をしたり漫画を読んだり自分のやりたいことを優先して行っており勉強はあまりしてこなかったのですが、5年生になって今就職しても自分のやりたいことも無ければ、これといって出来ることもないことに気づき進学しよう決め、専攻科に進みました。専攻科になると自分達とは違うコースの人達とも同じ授業を受けることがあり、コースの違いによる考え方の違いやこの中で自分に出来ることは何かということ自分で考えることが無かったため新鮮でした。この専攻科での2年間は高専で過ごした7年の中でもとても早く過ぎていったように思えます。

専攻科修了後の進路につきましては企業に内定をもらっており、4月からは新入社員として、新しい生活が始まることとなります。今まで学んできた知識や経験を基に様々なことを新たに学び、経験していくことになると思います。不安な気持ちもありますが、楽しく、自分を高めていくために頑張っていこうと思います。

最後になりますが、授業や研究に関して熱心に指導して下さいました先生の皆様方、7年も一緒に過ごしてきた同級生や、部活で一緒だった後輩とすでに卒業している先輩方、そしてなにより私を今まで育ててくれた両親に心から感謝申し上げます。今まで本当にありがとうございました。



電子通信システム工学 コース

松田 祐希

私が沖縄高専に入学し、7年が経過しようとしています。入学した時には5年という長い期間をかけて専門的な学習ができると考えていましたが、あっという間に本科を卒業して専攻科に進学し、合計で7年間在学することになりました。特に、専攻科に入学してからの2年間は早く、本科とは違い少人数での授業などに慣れようとしているうちに進級し、進路を決めるための活動をする気づけば修了を間近に控えていました。専攻科になると選択授業がほとんどになり自分で時間割を組むこととなります。修了や学位取得に必要な単位数を計算し、自身の進路や研究に役立てるために授業を選択することは自立や責任が求められるようになったと感じました。

本科5年次から研究室に配属されると、担当教員の方針もあり研究成果を発表する機会や論文を投稿する機会などをいただきました。大学院生や企業の方でも参加する研究会では、いろいろな質問や意見から自分の研究を見つめ直すことができ、他の参加者の発表を聞くことで刺激を受けることもでき、貴重な経験となりました。初めて参加したときは緊張し、質問に対しても上手く返答ができなかつたりしましたが、だんだんと経験を重ねるうちに質問者の意図を汲み、自分の考えをわかりやすく伝えることも少しずつできるようになったと思います。

私は4月から大学院へと進学します。まだまだ知識不足や経験不足だと感じることは多いですが、沖縄高専で学んできた知識、身につけた技術、得られた経験を糧にこれからの学生生活とその後の社会生活に励んでいきたいと思っています。

最後に、熱心に指導して下さいました先生方、長い学生生活を共に過ごしてきた友人たち、様々な面で支えて下さった両親に深い感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



情報工学コース

西銘 政紀

2019年。沖縄高専に入学してから7年の月日が流れました。

小学校に通うよりも長い間過ごした7年は、これまでの人生で一番濃い時期でした。中学校を卒業する前は、コンピューターの話も娯楽の話も他人とすることが少なかったのですが、高専で同級生と話してみるとそれらのことについて当たり前のように会話ができ、私よりも詳しい人が何人もいたことに嬉しさを感じ、衝撃を受けました。

私が初めて沖縄高専を見たのは中学の部活動の遠征のときです。バスで国道329号線を通り過ぎるときに眺めただけでしたが、校舎と学生寮、そして2つを繋ぐブリッジはまるでSF(Science Fiction)の世界のように見えました。入試の合格通知を高専のホームページで確認できた時、あの学校に通うことができると喜びに溢れました。

そんな高専での学生生活は楽なことばかりではなく、難しくなる授業や様々な面で強くなっていく同級生と何もできない自分との差に悩むこともありました。

専攻科に進学してからは困難が重なり、キツイ時期も多かったのですが先生方や友達に相談し、自分も踏ん張った結果なんとか凌ぐことができました。また、学生という身分を活かし、勉強会や情報系の大会にも参加することができました。自室にこもってアニメやゲームに興じるだけでは得られない、これらの経験は私の財産になることと確信します。

私は4月から社会人となり、何もかも新しい環境で働くこととなります。知らないことだらけで不安はありますが、この7年を乗り切った自分を信じて頑張っていこうと思います。

最後に、研究や授業などでたくさん指導して下さいました教職員の皆様と一緒に過ごした専攻科の皆さん、そして家族に感謝申し上げます。また、後輩の皆様のご活躍と沖縄高専の発展を祈念いたします。今までありがとうございました。



生物資源工学コース

與儀 泰一郎

入学して約8年間、とても長い年月を沖縄高専で過ごしました。たくさんの思い出があり、修了間際となる今では、ものすごく感銘深い思い出がこみ上げてきます。私は、沖縄の海洋生物である「サンゴ」について研究をしています。多い時には毎週海へサンプリングに行き、産卵シーズンになると毎日遅い時間までサンゴを見守っていました。そして、サンゴ礁学会への参加やテレビ取材を受けたりと大変貴重な経験を沖縄高専ですることが出来ました。これも日頃支えてくれている教員方、友人、後輩たちのおかげです。心より御礼申し上げます。

先日、いつも通り実験をしていると本科生時代の担当教員が「こんなすごい器具、もう使う機会ないぞ」とお声を掛けてくれました。このときハッとしました。今ある当り前は当り前じゃないんだと改めて気づかされました。沖縄高専という恵まれた環境で研究活動や勉学に励めたことを本当に幸せに思います。

私の進路としましては、沖縄県内でエネルギーに関する仕事に就きます。沖縄の発展に寄与できる第一志望の企業に内定を頂けたことをうれしく思います。沖縄高専で培った技術、考え方を活かし沖縄に貢献できる人材になれるよう励んでいきます。

また、沖縄高専で得た友人たちは一生の宝物にしていきたいと思っています。ほとんど県外に出てしまい、なかなか会う機会は少ないのですが、たくさんの思い出や苦勞を共有してきた仲間たちとの繋がりは大切にしていきたいです。

最後に、違う目標のため休学を決意した私の背中を押して下さいました担当教員と応援してくれた両親に心から感謝申し上げます。そして、沖縄高専の益々の御発展を祈念しております。

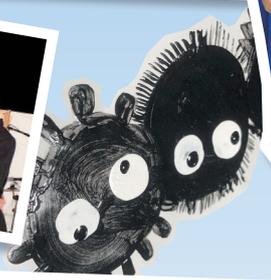


第14回 高専祭

高専祭7ヶ月準備いっしょ。

開催日：
10月27日～28日 (10/27～28)
開催時間：
(9:30～16:00)

高専祭



高専祭実行委員長
島袋 未悠



高専祭実行委員長を務めました生物資源工学科4年の島袋未悠です。
 今年の高専祭は10月27日～28日の2日間で開催され、劇・縁日・屋台・映像作品・お化け屋敷のクラス企画やライブ・ダンス・抽選会などのイベントで学生や来場者全員で盛り上がり大成功しました！
 14回目の今回は「ジブリ」をモチーフとした構内の装飾をはじめ、実行委員主催の「高専神社」、「男女合同スイーツ早食い大会」、「スマブラ（対戦型アクションゲーム）大会」などのイベントを敷地を最大限に活用し、学生はもちろんのこと来場者の方々に楽しんでいただけるよう力を尽くしました。
 特に、今回が初めての試みとなった「抽選会」では、パンフレットにある抽選番号を持参して体育館まで足を運んでいただいた多くの来場者が当選しておおいに盛り上がりました。
 また、高専祭のホームページやSNSアカウントを開設し、プログラムや当日の様子などをリアルタイムで周知することで集客に役立てることができました。
 私たち実行委員は「最高に楽しい高専祭」を目標にしてきましたが、最高に楽しいを実現するため試行錯誤を繰り返す日々が続きとても大変でした。
 しかし、学生の皆さんや協賛いただいたスポンサーの皆様、学生主事をはじめとする先生方、事務の皆様のご協力により無事最高に楽しい高専祭を作り上げることができました。この場をお借りしお礼申し上げます。
 そして、最後まで実行委員長である私を支え、共に高専祭を運営してくれた、書記、副実行委員長、各局長、局員の皆さんには感謝しかありません。本当にありがとうございました！！
 来年度は、自慢の後輩達が今回を超える『今までにない最高の高専祭』にしてくれますので、ぜひ周りの方を誘ってお越しください！



学生会より

平成 30 年度学生会会長を務めております、メディア情報工学科 4 年の喜納 瑠夏です。今年度の学生会は、毎年行われているスポーツフェスタや構内清掃などに加え、部費をかけたしっぽ取りゲームや SNS ツールの使用など、学生に楽しんでもらえるように、そして学生会を身近に感じてもらうため新しい企画にも取り組んできました。

本校では、勉強だけでなく部活や委員会、研究などで多忙な学生が多いです。時間のある人だけでなく、多忙な人にとっても学生会のイベントが、息抜きの場、コミュニケーションの場になるよう努力してきました。

会長として、いろいろ力不足な点があったと思いますが、先生方をはじめ、副会長や各局長など、多くの方に支えて頂いたおかげで私自身も成長できた 1 年になりました。来年度も、学生会をよろしくお願い致します。



平成 30 年度学生会会長
メディア情報工学科 4 年
喜納 瑠夏

寮 生 会 員 より



男子寮長

生物資源工学科 3 年
與那覇 星希

こんにちは。平成 30 年度男子寮長を務めさせております。生物資源工学科 3 学年の與那覇星希です。

平成 30 年度の寮生会では、学生寮をよりよいものにできるように活動してきました。

指導寮生会では寮生に対する指導などの風紀維持。整備委員会では月一で土曜日に行う特例清掃や長期休業前の大清掃の指揮。保安委員会では壊れている機器や設備などのチェック。

保健委員会ではレストランの店長を交えた意見交換会。企画広報委員会では、清掃時の音楽の選曲、寮祭の運営、オープンキャンパスでの寮の案内を務めてもらいました。

今年度も無事に寮を運営できたのは各委員会や全寮生、寮務主事の金城先生やレストランの方々、そして保護者のご協力を頂いたからだと思っています。

来年度以降も学生寮をもっといいものにしていけるように、寮生会一同力を合わせて頑張っていきます。これから沖縄高専学生寮をよろしくお願いします。



女子寮長

情報通信システム工学科 2 年
伊藤 咲

こんにちは。平成 30 年度女子寮長を務めさせていただいた情報通信システム工学科 2 年の伊藤咲です。今年度は執行部で夏休みに沼津高専さんと交流し、それぞれ高専さん、11 月には佐世保高専さんと交流し、それぞれの寮の運営方法を知ることが出来ました。交流して学んだことを生かし、これからの寮をより良くしていきたいと思っています。

今年度の主な活動としては、整備委員会は月一回の月例清掃、居室点検、閉寮前清掃の指揮や点検を行いました。保健衛生委員会は寮食アンケートの実施や、毎週の寝具リース交換を行いました。保安委員会は週一回の防災機器チェックや避難訓練の実施をしました。企画広報委員会は掃除の際の曲決め、寮祭の運営やオープンキャンパスでの寮案内を行いました。

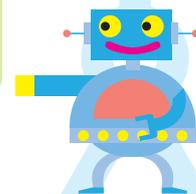
今年度、初めて寮長を務めて戸惑う事などたくさんありましたが寮務主事の金城先生や学生寮委員会委員の先生方、寮務係の方、寮生の協力のおかげで特に大きな問題もなく運営することが出来ました。この場を借りて感謝申し上げます。来年度も学生寮をより良くしていけるように寮生会一同協力していきたいと思っています。



ロボット製作委員会 部長（委員長）
機械システム工学科4年

高良 領

ロボット製作委員会



ロボット製作委員会 部長（委員長）の高良領です。私たちのロボット製作委員会では、毎年NHK主催の高専ロボコンに向けてのロボット製作を行っています。

色々な学生と協力してどんなロボットを作るのかアイデアを出し合い、持ち前の技術力でロボット製作を実現するため、日ごろから頑張っています。

例えば、今回（高専ロボコン2018）の競技は Bottle-Flip-Café といって、フィールド上のテーブルにペットボトルを立てて、その数を競い合うという競技でした。

見どころとして、今までは遠隔操縦がメインだった競技に自動制御という新たなお題が追加され、よりハイレベルな競技となりました。

沖縄高専ロボット製作委員会からは A チームと B チームの 2 チームが九州沖縄地区大会に出場し、A チームがリーグ戦を勝ち抜きベスト 5 の成績を残しました !!

チームとして徐々に進化を遂げつつあります !

「目指せ国技館 !!」を合言葉に来年は 5 年ぶりの全国大会出場を狙っています !

そのためには、これを見ている未来の高専生たちの力がなくてはなりません。

ものづくりがしたい皆さん、ロボットに関わりたい皆さん、先輩たちは優しく待っています !
ぜひ沖縄高専ロボット製作委員会に入ってロボコンをしましょう !! 絶対に楽しいです !!



グローバル交流推進センターの活動紹介

グローバル交流推進センター長
玉城 康智

グローバル交流推進センターは、国際社会に広く貢献できる人材の育成のため、沖縄高専の学生の海外派遣、外国の研究者・留学生の受け入れに関する事業を実施し、国際交流の連携を推進するために設立されました。

2018

- May.**
 - デンマーク領でありながら、独自のアイデンティティーや文化・言語を持ち、自治政府も運営している北欧フェロー諸島からの研究者 Firouz 教授（フェロー諸島大学 歴史社会科学学科）による講演・カジュアルトーク「北欧フェロー諸島から研究者がやって来る！」を開催しました。参加学生は初めて触れるフェロー諸島について活発に質問しました。（写真①）
- Jun.**
 - タイの交流協定校3校からのインターンシップ生を機械システム工学科、メディア情報工学科、生物資源科学科で受け入れました。
 - ・ King Mongkut's University Of Technology North Bangkok から4名（2ヶ月）
 - ・ Pathumwan Institute of Technology から1名（3ヶ月）
 - ・ Srinakharinwirot University から7名（2ヶ月）
- Jul.**
 - 名護市の日本語弁論大会に3名の留学生（ラオス、カンボジア、モンゴル）が出席し、うち1名（カンボジア）が3位（優良賞）を受賞しました。（写真②）
 - 官民協働海外留学支援制度 トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラムに4名が合格しました！
 - ・ 高校生コース 1名（機械システム工学科3年）アメリカ 8～9月
 - 1名（情報通信システム工学科3年）カナダ 8～9月
 - ・ 大学生コース 1名（情報通信システム工学科4年）ベトナム 8～9月
 - 1名（生物資源工学科4年）スイス 3月～2019年2月
- Aug.**
 - 国際性に富む人材育成留学事業（沖縄県）により、生物資源工学科3年生（1名）、2年生（1名）がアメリカに派遣されました。（約10ヶ月）
 - 海外インターンシップ（Maxis タイランド）に情報通信システム工学科4年生（1名）が参加しました。
 - タイ・バンコクにおける学生交流Ⅱ（10日間・King Mongkut's University Of Technology North Bangkok）に生物資源工学科3年生（5名）が参加しました（写真③）
- Sep.**
 - 学生海外研修：ペナン異文化体験型研修（マレーシア・ペナン）に生物資源工学科2年生（1名）が参加しました。
 - トビタテ！留学 JAPAN 説明会（全国の高専生対象）を開催しました。テレビ会議システムを用い、他高専の先輩方の体験談から情報収集を行ったあと、本校からたくさんの質問をしたことで、学生自身の留学をイメージする機会になりました。（写真④）
- Oct.**
 - 「持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する国際セミナー」(ISTS2018)に専攻科1年生（1名）が参加しました。セミナー中に出された課題に対する発表で『Best Innovation Award』（マハー・チャクリ王女賞を含めた3つの金賞のうち、最も革新的なアイデアを出したチームに贈られる賞）と『Autodesk Award』（各課題において、最も優秀であったチームに贈られる賞）の2つの賞を同時に受賞しました。（写真⑤）
- Dec.**
 - トビタテ！留学 JAPAN（平成31年度派遣・高校生コース）の学内説明会とタイ・バンコクにおける学生交流Ⅱ報告会を開催しました。トビタテ！説明会では、2018年8月に沖縄高専からトビタテ先輩2名の体験談、失敗・成功談、申請のコツなどの話がありました。



①



②



③



④



⑤

2019

- Feb.**
 - 官民協働海外留学支援制度 トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラムに1名が合格しました！
 - ・ 大学生コース 1名（生物資源工学科3年）ニュージーランド 2019年4月から2年間（予定）
- Mar.**

今後の予定
Okinawa Kosen Camp 2019：シンガポールの交流協定校 Singapore Polytechnic Temasek からの学生32名が約1週間滞在し、本校の5学科による独自プログラムや実験・演習を沖縄高専生のサポートを受けながら受講します。（3月中旬）



キャリア教育センター長

津村 卓也

キャリア教育センターは、学生のキャリア形成のための教育と学生や卒業生の進学・就職など進路決定活動の支援を目的として、教職員だけでなく多くの企業・団体の方や卒業生などにもご協力を頂きながら、キャリア教育プランに則って各学年に対応したキャリア教育と進路支援を行なっております。

学年別では、まず1～2学年で、ワークショップ・講演会・講話などを通して、自立・自律の姿勢を身につけるとともに自己と社会との関わりについて考える機会を持ちます。

次に3～4学年で、コミュニケーション研修・履歴書の書き方講座・研修旅行での企業見学・企業技術者講演会・自己分析講座などを通じて、各学科の専門性を意識した実践的な知識を習得し、将来計画に基づいた具体的な行動方針を決める機会を持ちます。また社会で期待される人材像の理解を深め、社会人マナーを理解し実践する機会として、ビジネスマナー講習・メイクアップセミナーを受講し、夏季休業期間には企業などでインターンシップに参加します。

さらに5学年および専攻科で、企業による業界研究会、企業説明会や大学による進学説明会に参加し、これまでのキャリア教育を通じて経験し学んだことも活かしつつ、自分の進路を決定します。

他には、キャリア教育センター室に相談窓口を設け、専任のキャリアアドバイザーが、学生の疑問や相談への対応・個別の採用面接練習・エントリーシートの記入内容指導などを行っています。この相談窓口は、本校卒業生や保護者からの相談も受け付けております。

これらの活動は、単に進路を決定するための情報提供・支援だけでなく、自分自身を分析して理解し、社会を知り、業界・業種・職種などを理解したうえで将来どのような道に進みたいのかをじっくりと考え、「自分の進路を自分で決定できる能力」を養うことを目的としています。

就職・進学に向けた活動状況報告



電子通信システム工学 コース 2年

武田 都子

この度は、航空機の内装品事業を行っている株式会社ジャムコ様から内定を頂きました。航空技術者プログラムを履修した当初は、「航空業界で活躍したい!」という気持ちよりも「誰かのために何かしたい!」という気持ちの方が大きかったことを今でも覚えています。石垣島出身であるため幼いころから飛行機の搭乗する機会が多く、ほんの少し航空業界に興味を持っているだけでした。昨年、ISTSという国際セミナーに参加するためにフィンランドに渡航したのですが、その時に搭乗したボーイング787の機体、特に「飛行機のお手洗い(ラバトリー)」に惹かれたことを今でも覚えています。今までのラバトリーのイメージといえは、暗くて狭いと感じるものでしたが、その飛行機のラバトリーは青の照明で落ち着いた雰囲気を出しており、広く落ち着ける空間だったのです。さらに当時一番衝撃的だったのは、そのラバトリーの設計・製造は日本の企業が行っているということです。その企業というのが、今回私が内定を頂いた株式会社ジャムコ様でした。現在世界を飛んでいる飛行機に、日本の技術が組み込まれている感動をきっかけとして、「整備士だけじゃないんだ!いつかはみんなを驚かせるような製品を創ってみたい!」と強く思うようになりました。

就職活動を通して感じたのは、今までの経験や行動がすべて結果につながるということです。研究も何事においてもですが、就職活動も1日にして成らずだと思います。また、就職活動に力を入れすぎるばかり、やるべきことをないがしろにするのも違うような気がしたので、就職活動期間中も与えられた学校の課題は期限内にやるように努めました。内定を頂くまでの期間、モチベーション維持は大変でしたが、「やるべきことをやれば結果はついてくる」と強く思うことが大切だと感じました。周りの方々は必ず努力する人を見てくれていて、頑張る人を支えてくれます。就職活動は辛い長い道ですが、辛いときは周りの人を頼ることを忘れず、自分のペースで頑張ってください!



生物資源工学コース 2年

木村 碧樹

私は、進路として九州大学院進学を選択しました。

理由は、沖縄高専で生物学を学んでいくにあたって、生物学と情報学を組み合わせたバイオインフォマティクス分野に興味を持ち、もっと学びたいと思ったからです。

大学院を選択するにあたり、研究の内容、研究室の雰囲気、先生との相性に重きを置き、複数の大学の研究室訪問やインターンシップを行いました。また、研究室に学振取得者がいることは今後、自身の学振取得において参考になるため、そこにも注目しました。

進学にあたって、進学先を決定していなかった専攻科1年次は、有機化学、生化学の勉強を中心にしていました。生物学ではなく、有機化学と生化学を勉強した理由は、インターンシップ先で「生物学を本当に学びたいならその基礎である有機化学と生化学を学ぶことが必須」と言われたからです。教科書は一冊700ページほどの本を用いていたので、勉強するのが大変でしたが、「Studyplus®」という学習管理アプリを使うことで、多いときは週45時間ほど勉強できました。「Studyplus®」のいいところは、タイムライン機能で、他の人の勉強時間に感化されて向上心が生まれることです。

2年次で頑張ったことは、生物学とTOEICです。生物学は「The Cell」を使って勉強しました。TOEICはひたすら過去問を解いて、わからない単語や文法をまとめていました。私の場合、最終的には面接試験のみであったため、筆記テストなどはありませんでしたが、2年間で勉強してきたことはかけがえのないものとなりました。

これから進学を考える皆さんへ伝えたいことは、勉強は時間がかかるため早い段階で始めることと自分にあった研究室を慎重に選択することです。私自身、TOEICは600点台とあまり点数が取れませんでした。幸い、合格しましたが700点以上を目指したほうが良いと思います。研究室選びについては、今後数年身を置く研究室になることになるため、自分にあった活動しやすい研究室を選択するのが重要だと思います。皆さんの進路がより良いものになることを祈念いたします。



機械システム工学科
5年
島袋 起徳

5年生になるとみんな進路のことで忙しくなります。半分近くの学生は夏休みまでに自分の進路を決定します。僕の場合は就職で、夏休みが終わってすぐに決まりました。

僕が今の会社に就職しようと思った理由はインターンシップです。インターンシップでは様々な経験をする事が出来ました。インターンシップではちょっとした仕事を任せられたり、工場を見学したりしました。会社の人たちも気さくな人が多く、たくさんのお話を聞くことが出来ました。また、会社の方が沖縄高専に来る機会が何度かあり、そのたびにお話を聞いたり会社のお話を深く知る機会がいくつもありました。

就職するにも進学するにも避けて通れないのが、面接です。僕の場合は一か月ほど前から学校にあるサポートセンターに通い、アドバイスをもらったり、練習をさせていただきました。本番当日の面接では、吐きそうなくらい緊張しました。(笑) この面接で自分の人生が決まると考えると、とても気が気ではありませんでした。

練習のおかげもあってか、面接官の質問にも上手く返答することができ、無事に就職することが出来ました。

僕の高専生活は波乱万丈でしたが、この思い出をばねに社会に飛び込み、自分の力がどこまで通用するのかを確かめに行きます！！



情報通信システム工学科
5年
伊野波 盛瑛

私は沖縄高専入学当初から情報通信関係の職業に就職したいと考えていましたが、当時はまだ具体的な業種は決めていませんでした。学年が上がるごとに進路について考える機会が多くなり、家族や友人と話したり先輩の話を聞いたりしていくうちに、社内教育や福利厚生が充実していてやりがいを持って働ける職場が理想であると感じ始めました。3年次の頃から参加し始めた業界研究会や様々な企業説明会を通して通信インフラに興味を持ち始め、ぜひ業務内容を体験したいと思い4年次には東日本全域の通信インフラの構築・保守を担うNTT東日本グループ会社<エンジニア>へのインターンシップに参加しました。インターンシップを通して、国内最大級の通信インフラを支えるために日々技術力を磨き、エンジニアとしてのプライドを持って活躍できる業務だということを感じ、上述の理想の職場像にも一致したのでこの会社に就職したいと強く思いました。

採用試験までに、筆記試験対策やエントリーシート作成、面接練習などやる事がたくさんありましたが、学科の先生方やキャリア教育センターの方に協力してもらい、何度も練習して本番に備え、無事内定を頂くことができました。筆記試験対策では主にSPIやCABをこなしました。コツを覚えれば解法を習得するのは早いですが問題のパターン数が膨大なので、できるだけ早い時期から筆記試験対策を始めることをお勧めします。面接練習も様々な質問を想定して対策しなければなりませんので大変ですが、キャリア教育センターではプロの視点から様々なアドバイスを頂けるのでぜひ利用してみてください。

もし、現在進路に迷っている方がいるのなら、業界研究を徹底することを推奨します。企業や大学の説明会に参加したり、周りの人たちに相談したりすることで、自分が本当にやりたいことは何かを明確にすることが進路決定の第一歩だと思います。進路決定はこれからの人生に大きく影響するイベントだと思うので、悔いの残らないように頑張ってください。



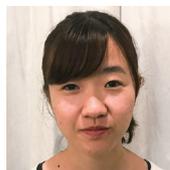
メディア情報工学科 5年
柏木 拓海

私は、愛知県名古屋にある株式会社トヨタシステムズに就職の内定をいただきました。この企業は、トヨタグループ各社のグローバルなIT戦略をサポートする会社です。また、働きやすい環境づくりや人材育成にも力を入れています。

就職活動を振り返り、視野を広く持ち、様々な人から情報を得るということを実践して良かったと感じています。友人や就職活動を通して知り合った人などから得た情報から企業・業界の視野が広がりました。また、社員の方に積極的に質問をすることにより、会社説明会やウェブ上の情報ではわからないその企業の深い部分やマイナスの部分も知ることができました。

私がこの企業に就職を決めた理由は、人と人とのつながりを大切にするという会社の価値観にひかれました。黙々と仕事をこなすよりはコミュニケーションをとり仕事をしたいと考えていたからです。そしてこの価値観は、企業研究を重ね、社員の方々の話を聞いていくうちに社員一人ひとりと、そして会社に深く浸透しているのだと感じました。

就活は「個人戦」です。自分で決めて、自分で挑んで、自分で結果を受け止める必要があります。沖縄高専受験も同様でしたが、大きく異なる点は、就活は、「社会人」になるための関門ということ。学生という見守り期間から、社会人という自立と自律が求められる期間への移行期です。なので、社会人になるという自覚を持って就活に取り組んでみてください。



生物資源工学科 5年
比嘉 咲

私は就職活動に際し、自然環境の保全に携わることが出来る企業への就職を目標にしました。私はこれまで、自然教室や環境調査、授業の野外実習等で沖縄の自然に触れる中で、自然環境が壊れていく現実を目にしてきました。また、環境問題は国内だけでなく世界的な問題であることも、多くの授業や講演会を通じて学んできました。より良い暮らしのための発展を目指す中で、自然とどう共存していくかが大切であり、またそれがいかに難しいことであるかということを感じており、そうした経緯から、快適な社会の持続的発展と豊かな自然環境の保全・継承を目指し、将来的には沖縄の自然環境保全に携わっていきたく考えたからです。

沖縄高専では、環境系の企業へ就職した先輩方が少ないため、まずはどのような企業があるのか、大手就職情報サイトを用いたり、環境省の入札リストから企業を探したりと、企業研究を行いました。学内での企業説明会にも、環境系の企業が無いことから、学外で行われている企業個別の説明会にもたくさん参加しました。沖縄の自然環境を守るためには、沖縄県外のことを知らなくてはならないと思い、就職先は沖縄県外を前提に探していたため、春休みのうち3週間ほどは関東に滞在し、週末を除いて毎日、説明会に参加していたと思います。

エントリー後は、面接の度に飛行機を使って沖縄以外の他都県に行くこととなります。慣れない土地での就職活動は、中々うまくいかないこともあり、心が折れそうになることもありましたが、しかし、面接では特に緊張することなく、ありのままの自分を見てもらおうと、とにかく真っ直ぐに受け答えをすることを意識しました。結果、良き縁に恵まれ、株式会社エンバイオ・エンジニアリングという土壌汚染を専門に取り扱っている企業より内定を頂くことができました。

就職活動を行う中で、交通費・宿泊費などの金銭面を援助してくれたり、「自分の満足いくまでやりなさい」と私の背中を押してくれたりした両親には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

社会人になったときに、沖縄高専で学んだ知識が十分に活かせるとは思っていません。なぜなら、この5年間で学んだことは、業界で必要な知識のほんの一部にすぎないからです。だからこそ、5年間で得た知識をフルに活用しながら、常に学ぶ姿勢を崩さず、何事にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

4月から、新社会人として、また、沖縄高専の卒業生として、新たな土地で精一杯、自分らしく頑張っていきたいと思っています。

インターンシップ体験記



機械システム工学科
新垣 圭汰

私はこの度 JTA 日本トランスオーション航空株式会社と MRO Japan 株式会社の 2 社へインターンシップに参加させていただきました。

1 社目の JTA のインターンシップは、5 日間那覇空港で参加させていただき、格納庫や実際の整備作業の見学をしたり、毎日違った整備士の方々がいらっしゃり実際の機体を用いて飛行機の部品や構造の原理について、優しく丁寧に教えていただきました。学校の授業で飛行機の仕組みについて座学で学んだことに加え、実物の飛行機を見て理解することができ知識をさらに深めることができました。実習中に飛行機の実際の整備マニュアルを読ませていただきましたが、全て英語で記述されており、英語をさらに勉強しないとイケないと感じました。

2 社目の MRO Japan は、航空技術者プログラムの一環として参加させていただきました。インターンシップは 5 日間伊丹空港で行われ、基本作業体験実習や、整備体験実習をさせていただきました。各教官の指導の下、基本作業体験は締結作業、panel の取り付け取り外し、構造修理を体験させていただきました。実機整備体験は実機 Q400 を使って主翼のカバーの取り付け取り外し作業を体験させていただきました。本物の航空機の主翼の上で作業を行い、普段できない貴重な体験ができたことを思うと、とても嬉しかったです。また、現場で整備士の方々が、飛行機の整備をひとつの失敗も許されない責任感をもって仕事をしているのを目の当たりにして私自身も引き締まりました。

今回のインターンシップを通して、仕事をする上での大切さや、常に考えながら責任感をもって作業をするなどの社会人に必要なことなど学ぶことができました。また、担当者の方々から会社や仕事について直接話を伺うことができたので、今後の進路について大変意義のあるものとなりました。

これからインターンシップをする学生の皆さんは、将来の進路をよく考え、行ってみたい企業を見つけて欲しいと思います。インターンシップは企業のことだけでなく、自分を知ることができる貴重な機会ですので、有意義なものにするために真剣に取り組んで欲しいと思います。また、自分の習っていない専門分野で「やりたかったことはこれじゃないかも」などと思っただけでなく、学校を辞めるという選択だけではなく、まずは一度他の学科に転科してみるという選択も視野に入れて欲しいです。私も実際に生物生として入学しましたが、2 年生から機械科に転科致しました。実際に学科を変えてみると何か変化があるかと思えます。

最後になりましたが、この度インターンシップをお引き受けいただいた企業の皆様方と、先生方には心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



機械システム工学科
桃原 絵理花

私は夏休みの 6 日間、花王株式会社のすみだ事業場にインターンシップでお世話になりました。

花王のインターンシップといえば化学・生物関連の実習が多いと思っていましたが、実習テーマが 40 程用意されており機械科の学生を受け入れているテーマもありました。中でも授業でも使用している 3DCAD と、私の興味のあるユニバーサルデザインを扱っていた「機能性容器の構造解析と 3D プリンターによるモノづくり」という実習テーマに応募しました。

私がお世話になった部署は包装容器開発研究所で、シャンプーなどのボトルや化粧品などの花王製品の全ての包装容器の設計・製作を行っている部署です。具体的な実習内容としては、トリガーのユニバーサルデザイン最適化研究を行いました。バスマジックリンなどのスプレータイプの製品のシンプルな形状のトリガーにユニバーサルデザインを適用し使い勝手を研究するという内容です。現行品の使い易さを評価して、自身が使いやすいと思う形状を 3DCAD で設計、3D プリンターで造形し試作品を製作しました。試作品を社員の皆さんに使って貰うと私がいやすいものは男性だと使いにくかったり、トリガーの引き方も人によって違っていたりしてユニバーサルデザインを作り出す難しさを感じました。最終日は研究をまとめた最終発表があり、前日は資料の作成や発表の練習が大変でしたが社員の方々に助けてもらい無事に終えることができました。

今回のインターンシップを通して企業が細かな部分まで工夫を凝らしてものづくりをしていることがわかりました。また、自身の意見だけでなく色々な人の意見を取り入れ多角的な視点を得ることが出来る人が使いやすいものづくりをする上で重要であることを感じました。

私が選択した実習テーマの受入人数が 1 人だったため他の学校からのインターン生などがおらず寂しい思いもしましたが、自分が希望したテーマに参加できたことは良かったと思っています。今回の学びと経験を活かして、今後も励んで参ります。



情報通信システム工学科
仲宗根 綾乃

私は沖縄県うるま市にある東京計装沖縄工場で 5 日間お世話になりました。

東京計装は流量計及び液面計の製造・販売・保守を行っている企業です。

インターン中は製品の受付から組立てに至るまでの業務を見学させていただきました。組立てという業務でも細かく工程が分かれており、どの製品をいつまでに作るかのスケジュールを組む作業、製品ごとに使う部品の引き当て、輸入してきた部品の通関手続き、そして組立てなど様々でした。どの工程でも共通していたのは何度も確認作業を行っており、ミスは許されない責任の重さを感じました。また、プログラミング教育にも力を入れており、私も講義に参加させていただきました。講義内容は Java や C と似たような言語を使用しており、社員さんに教えてもらいながら問題を解いていたのでプログラミングの力不足を感じました。

今回のインターンシップを通して製品の組立てを行うクリーンルームで使用されている機器や、作業を自動化するとき使用されているプログラミング言語などは、授業との関連性があり今後のモチベーションアップに繋がりました。また、沖縄工場では海外との輸出入も盛んで英語を使用する機会もあり、英語に力を入れて取り組みたいと思いました。そして、インターンを通じて関わらせていただいた方々のお話では、技術内容だけではなく入社される以前の話や、経緯を聞かせて頂き非常に勉強になりました。

最後に、これからインターンシップに参加される皆さんへ。私は学校の業界研究会で東京計装という企業を知って、お話を聞いただけで就職を考えるほど魅力的な企業でした。

そしてインターンシップに参加することでホームページやパンフレットだけでは知ることのできない会社の雰囲気や、いろんな社員さんのお話を聞くことができ、さらにここに就職したいという意思が強くなりました。そのため、インターン先を決定することは非常に大切なことです。業界研究会など積極的に参加し、企業の情報収集を行う事で爽りのあるインターンシップになると思います。



情報通信システム工学科
山城 卓巳

私は、ベトナム・ハノイにある FPT Software 社のインターンシップに一月間参加しました。FPT Software 社は、ベトナム国内や海外からの外部委託の請負を主な業務としている企業です。請負の内容も多岐にわたり、自動車のモジュール設計や、金融業界向けデータ分析システムの開発などを行っています。そして、2013 年から 5 年連続で「グローバル・アウトソーシング企業トップ 100」に選出されているなど、世界を舞台に活躍する企業です。

今回、私はインターンシップに参加するにあたって、2 つの目標を立てました。一つ目は、グローバル社会において、社員の力を最大限に発揮させるリーダーシップ力を身に付けることです。この目標を立てた理由は、多種多様な文化・考え方を持つ多くの国と取引を行う企業では、他国から来る社員の積極性を引き出すために、どの様に人をまとめ、労働環境を提供しているのかについて疑問を持ったからです。この疑問は実際に見て、そして職場を体験してみないと解決できないと私は考えました。

二つ目は、LSI 設計技術の習得です。FPT Software 社には回路設計の業務委託が多くあるため、専門の部署が設立されていました。この会社を選んだ理由は、この目標を達成するためというところが大きかったです。

インターンシップ中は、LSI 設計部署にお世話になりました。研修初日には、通常、新入社員が行う e-Learning を使った研修を行いました。ここでは、私がインターン前に設定していた目標の「グローバルリーダーシップの習得」につながるプロジェクトマネジメントの評価制度や、その規格について学びました。それからは、二週間はプログラミングの研修を行いました。しかし、私はプログラミングが苦手なためこの研修は苦痛でした。しかし、担当者の方から、「来週のテストで合格点を取らなければ次の研修に進めない」と言われ、必死に勉強しました。そして、テストを無事合格して最後の二週間は回路設計に必要な基礎知識を学ぶことができました。この経験から、プログラミングへの苦手意識を克服することができたと思います。

ここまで堅苦しく話してしまいましたが、楽しい思い出もたくさんありました！休日には、同じ部署でインターンシップ中に仲良くなったスリランカ人の方と観光をしたり、同僚の方々とカラオケに行ったりしました。外国の方とカラオケに行くことが夢だったので、とてもいい経験ができたと思います。インターンシップには辛いこと、苦しいことがあるかもしれませんが、事前に明確な目標を立てて、その達成に向けて頑張ってください！



メディア情報工学科

喜納 瑠夏

私は、夏休みにニフティ株式会社と株式会社シー・シー・ダブルの2社のインターンシップに参加させて頂きました。

ニフティ株式会社とは、主に接続サービスを提供していますが、ニュースや占いなどのwebサービスなど、お客さんがより快適に生活できるようなサービスを提供している企業です。インターンシップでは、「新規サービスの企画」や「エンジニア向けの開発」のプログラムがあったのですが、私は、お客さんに喜んでもらえるためのサービスの考え方を学びたいと思い、サービス企画のプログラムに参加させて頂きました。2日間という短い期間の中、4～5名のグループでアイデア出しから始まり、需要や収益性なども含めて一つのサービスを企画しました。社員の方に、企画立案に必要な考え方や知識などの講義をしてもらい、ターゲットを絞って考えること、サービス内容はシンプルにすること、などの初めて知ったことが多く、企画の大変さと楽しさを改めて感じました。私以外のインターンシップ参加者は全員大学生で、年上ばかりの環境の中で緊張しましたが、グループのメンバーも社員の方もみんな優しく、とても助けられました。

株式会社シー・シー・ダブルとは、主にIT構築やシステム開発を行っている会社ですが、インターンシップでは山梨にある事業所で管理している畑「ぐーももファーム」のPR動画を4人で作成しました。編集で使用したAdobe Premierというソフトは、2年生の頃に授業で使っていたので、思い出しながらですが編集を進めていくことができました。

5日間のインターンシップですが、発表などのため、実質4日間です。ストーリーを決めから撮影、編集となりました。そのため、細部までこだわることができず、あまり満足いく仕上がりにはなりません。それでも、1人では絶対に間に合うようなものではなかったため、チームでお互いの苦手を補った効率の良い分担作業がいかに大事か学びました。

今回体験した2つのインターンシップは、分野も内容も異なるものでしたが、チームワークが必要な事、期限を意識することは共通していました。これらは、他の様々な企業でも共通することだと思うのですが、働くことに対してどこか他人事のように感じていた私ですが、インターンシップを機に「働くこと」とは何なのか、どんな仕事をしたいかを考えるようになりました。インターンシップに参加する際、一つの企業だけでは情報が偏ってしまうこともあると思うので、複数の企業で体験することをお勧めします。



メディア情報工学科

宮里 颯斗

私は、春季休業中の約2週間をチームラボ株式会社さんと、夏季休業中に、株式会社ネオジャパンさんと1週間、ヤフー株式会社さんと1週間、合同会社DMM.comさんと2週間、計4社のインターンシップに参加させて頂きました。それぞれの企業で主に行っていることは違いますが、4社ともにIT系企業でアプリケーションの開発・運用を行っている会社です。

4社中3社のインターンシップではAndroidアプリケーション開発の業務に関わらせていただき、開発チームの一員として参加することで実際の業務開発を行う際に必要な技術や心構えを学ぶことができました。メンターの方と「どういうことを学びたいか・経験したいか」「このインターンシップの期間で可能なのはどれか」ということを相談し、開発する機能を決め実際に開発しました。最初は知識も技術も全然足りなくコードを書くことはおろか既存のコードを読むことすらできず辛い思いもたくさんしました。ですが、メンターさんに教えてもらいながら分からないことは質問し調べることで段々とコードを理解できるようになっていき、きちんとコードを書くことができました。期間内に担当機能を完成させ、残った時間で他の機能開発やコード修正にも関わることができました。インターンシップで行なった内容がリリースされたと言われた時は嬉しかったです。

もう1社のインターンシップではプロダクトの企画から開発、試験にプレゼンテーションまでの実際の業務を行う際に必要な一連の流れを実際に作成しながら体験し、就職後に必要なスキルを講義形式で学ぶことができました。他校の学生とチームを組み、実務での開発フローに沿って行うという経験は授業だけではなかなか味わうことのできない貴重な体験で、しかもそれを実際に働いている先輩社員から直接教わり必要なスキルを講義で教わることでできて本当に良かったです。このインターンシップで、設計書をきちんと作成する・試験を行うというような基本的ではあるが今まで出来ていなかったことの必要性や重要性を直に感じる事ができました。

インターンシップに行く前に自分の興味のある分野はなんなのか就職後に何をしたいのかを考え自分にあった企業を探してみようという意識がインターンシップになると思います。インターンシップでは、普段の授業だけでは絶対に経験できないようなことを業務内外通して多く経験することが出来ます。インターンシップに参加することで自分が将来働いている時のイメージができるので就活で企業を選ぶ際の指針にもなると思います。



生物資源工学科

具志堅 悠馬

私は花王株式会社のインターンシップに参加させて頂きました。今回のインターンシップで私が花王を選ばせて頂いたのは、業界研究会で興味を持ち実際に見てみたいと思ったこと、微生物系の研究所があり「防腐設計の考え方について」というテーマが面白そうだったからです。

私が研修を受けたのは小田原事業場安全科学研究所第3研究室という場所でした。ここは化粧品品の防腐設計についての研究や安全性の確認などを行っていて、私はPET試験・菌種同定という2つの実験について教えて頂きました。特にPET試験というのは防腐設計という、設計通りに微生物の数が減少するかを見る試験であり、実際に花王で行われている試験法を行わせてもらったのは非常に興味深く、勉強になりました。防腐設計の考え方を学ぶことができたのは自分の中でとても大きく、このような研究テーマがあるということを知ることができ視野が広がりました。また、花王の製品開発について「ヘルシア」をテーマに貴重なお話を聞くことができ、私も質問したり意見を述べたり社員の方々と密に会話をしたことで、今まで興味をもっていなかった製品開発という仕事について考える良い機会となりました。

このインターンシップで、会社で働くということは会社の一員としてお客様のためにどのような仕事ができるのかを考えること、安全・安心の製品を提供すること、どの分野にも興味をもって仕事に取り組む姿勢、誠実であることなどが非常に大事だということを知りました。また、私は実験や研究が好きだということを知り、今後の就職・進学について真剣に考えるようになりました。



生物資源工学科

宮里 真珠

私は8月29日から31日までの3日間、日本トランスオーシャン航空株式会社の客室乗務員インターンシップに参加しました。沖縄高専から3名、県内の大学から3名、合計6名での研修でした。

今回のインターンシップを通して学んだこと・感じたことは大きく2つあります。

1つ目は、会社が社員を大切に、社員が会社に貢献しようという一人一人努力していることです。これを強く感じたのは、1日目の午後に行った、先輩方との座談会でした。午前中の企業説明で企業理念の1つである「全社員の物心両面の幸福を追求する」というお話を伺いました。これは最高のサービスを提供するために、まずは社員が会社に満足しようというものです。フィロソフィー教育などを通して「なぜ働くのか」、「働くとは」といった仕事のやりがいや皆が追求できるような教育を行っていました。座談会では、ジンベージェットやアムロジェットなど、社員一人の声から生まれ、皆で実現した企画が多いと伺いました。たった一人の声であっても否定せず、実現させることで話題をよび、よりよいサービスにつながるという企業理念が実現されており、手厚い教育を実感しました。

2つ目は大学生と高専生の意識の違いです。今回は県内の大学生の方々と一緒に研修を受けることができ、沢山の刺激をうけました。特に、3日目に行ったキャリアパス作成では、私はまだ自分の将来像がぼんやりとしか書けない中、大学生の先輩は〇歳で～するなど具体的な目標を描けており、将来に対する意識の違いを感じることができました。高専は、外の学生との関わりが少ない中で、今回の研修を通して、大学生と知り合い、自分と比較することができたのは、これからの進路選択においても、視野を広げるとてもよい経験になったと思います。

最後に、このインターンシップは前期に行われた3回の客室乗務員特別講義を受講して、選考を経てからの参加でした。チャンスが平等にある中で、それをどれだけつかめるかが進路決定には大きく影響してくると思います。私自身、インターンシップへの取り組みが遅く後悔したので、後輩には早めに準備をして多くのチャンスをつかみ、より学びの多いインターンシップをしてほしいです。

■就職・進学・志願状況

【平成31年3月卒業予定者の進路状況】

平成31年3月6日現在

区分	学科				合計
	機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	
卒業予定者数※2	35	36	40	38	149
進学希望者数	18	15	8	19	60
合格者数	16	15	8	17	56
うち専攻科合格者数	5	12	3	9	29
うち3年次編入等合格者数	11	3	5	7	26
うち専門学校・その他進学者数	0	0	0	1	1
進学合格率 (合格者数 / 進学希望者数)	88.9%	100.0%	100.0%	89.5%	93.3%
進学予定先※1	長岡技術科学大学 (3) 豊橋技術科学大学 (4) 千葉大学 富山大学 和歌山大学 琉球大学 沖縄工業高等専門学校専攻科(5)	豊橋技術科学大学 琉球大学 沖縄国際大学 沖縄工業高等専門学校専攻科(12)	九州工業大学 東京農工大学 電気通信大学 琉球大学 沖縄国際大学 沖縄工業高等専門学校専攻科(3)	長岡技術科学大学 東京工業大学 帯広畜産大学 新潟大学 岡山大学 東京農工大学 長崎大学 沖縄工業高等専門学校専攻科(9) 沖縄ラフ&ピース専門学校	
就職希望者数	16	21	31	19	87
内定者数	16	21	31	15	83
内定率 (内定者数 / 就職希望者数)	100.0%	100.0%	100.0%	78.9%	95.4%
内定先企業名※1 (県内) 県内に本社のある企業	計0名 内定者に占める割合 0%	MRO Japan 株式会社 計1名 内定者に占める割合 5%	沖電グローバルシステムズ株式会社 計1名 内定者に占める割合 3%	EM 研究機構 計1名 内定者に占める割合 7%	計3名 内定者に占める割合 4%
内定先企業名※1 (県外) 県外に本社がある企業	小島プレス工業株式会社 東空販売株式会社 株式会社 NAITO ANAラインメンテナンステクニクス株式会社 村田機械株式会社 ソニーエンジニアリング株式会社 株式会社ベアック JXエンジニアリング株式会社 栗田鑿岩機株式会社 スチールプランテック株式会社 東京計装株式会社 大阪ガス株式会社 株式会社ダイハツビジネスサポートセンター 新日鐵住金株式会社 JXTG エネルギー株式会社 株式会社 IHI	株式会社RKKコンピューターサービス NTT 東日本グループ (3) 東芝インフラシステムズ株式会社 パナソニック株式会社 アプライアンス社 富士電機株式会社 ANAスカイビルサービス株式会社 ANAラインメンテナンステクニクス株式会社 東芝マイクロエレクトロニクス株式会社 NTTデータソフィア株式会社 (2) 京セラ株式会社 (2) 株式会社富士通マーケティング 株式会社 NTT フィールドテクノ 株式会社 ディアアイスクエア 株式会社 JAL エンジニアリング 出光興産株式会社 東芝エネルギーシステムズ株式会社	ANAラインメンテナンステクニクス株式会社 株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー (2) 株式会社イエアエセキュリティ 株式会社 NTT データフロンティア 株式会社アルク アスクール株式会社 (2) 株式会社ダイハツビジネスサポートセンター 株式会社トヨタコミュニケーションシステム 株式会社コンピュータマインド 株式会社ヨタコミュニケーションシステム 株式会社日立信情報通信エンジニアリング(2) 株式会社 ヴィッツ TDC ソフト株式会社 株式会社日立ハイシステム21 株式会社 DMM.com ラボ 株式会社 NTT ファシリティーズ九州 ソニーエンジニアリング株式会社 株式会社 KDDI ウェブコミュニケーションズ 株式会社木村情報技術 株式会社スターシステム 株式会社メンパース キャッツ株式会社 株式会社 NTT データソフィア 株式会社 ソフトウェア・サイエンス sansan 株式会社 株式会社 エム・ソフト	株式会社花王 (3) 旭化成株式会社 株式会社ノビア 株式会社資生堂 (2) 第一三共プロファーマ株式会社 株式会社エンパイオ・エンジニアリング ヤフー株式会社 株式会社ナリス化粧品 キリンビバレッジ株式会社 サントリースピリッツ株式会社 花王コスメプロダクツ小田原株式会社	
	計16名 内定者に占める割合 94%	計20名 内定者に占める割合 95%	計30名 内定者に占める割合 97%	計14名 内定者に占める割合 93%	計80名 内定者に占める割合 96%

※1. 同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を () 内に示しています。

※2. 卒業予定者数には留学生を含む。

※3. 機械システム工学科卒業予定者のうち1名は就職・進学を希望しない。

※4. メディア情報工学科の卒業予定者のうち1名は就職・進学を希望しない。

【平成31年3月修了予定者及び平成31年3月修了予定者の進路状況】

平成31年3月6日現在

区分	コース				合計
	機械システム工学コース	電子通信システム工学コース	情報工学コース	生物資源工学コース	
修了者及び修了予定者数	5	8	8	8	29
進学希望者数	0	3	1	2	6
合格者数	0	3	1	2	6
うち大学院等進学者	0	0	0	0	0
進学決定率 (合格者数 / 進学希望者数)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
進学予定先※		奈良先端科学技術大学院大学 熊本大学大学院 電気通信大学大学院	奈良先端科学技術大学院大学	九州大学大学院 名城大学	
就職希望者数	5	5	7	6	23
内定者数	5	5	7	6	23
内定率 (内定者数 / 就職希望者数)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
内定先企業名 (県内) 県内に本社のある企業	沖縄電力	日本トランスオーシャン航空株式会社	株式会社ODNソリューション	株式会社りゅうせき オリオンビール株式会社	
	計1名 内定者に占める割合 20%	計1名 内定者に占める割合 20%	計1名 内定者に占める割合 14%	計2名 内定者に占める割合 33%	計5名 内定者に占める割合 22%
内定先企業名 (県外) 県外に本社がある企業	NOK株式会社 武蔵エンジニアリング株式会社 JXエンジニアリング株式会社 日本電子株式会社	株式会社ジャムコ ボッシュ株式会社 アドバンスプランニング株式会社 株式会社ANAベースメンテナンステクニクス	ヤフー株式会社 株式会社ヴィッツ 株式会社ラック ニフティ株式会社 株式会社ハイマックス 株式会社東邦システムサイエンス	テルモ株式会社 株式会社花王 花王コスメプロダクツ小田原株式会社 ナリス化粧品	
	計4名 内定者に占める割合 80%	計4名 内定者に占める割合 80%	計6名 内定者に占める割合 86%	計4名 内定者に占める割合 67%	計18名 内定者に占める割合 78%

※同一の進学先に複数名の学生が進学した場合、その人数を()内に示しています。

平成31年度学生募集結果一覧

推薦による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	6	0	6	0
情報通信システム工学科	8	2	8	2
メディア情報工学科	14	4	12	4
生物資源工学科	1	10	1	10
男女別計	29	16	27	16
合計	45		43	

学力による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	23	2	31	3
情報通信システム工学科	37	5	28	4
メディア情報工学科	34	8	20	6
生物資源工学科	13	7	16	8
男女別計	107	22	95	21
合計	129		116	

平成31年度(前期)行事予定表

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1月	在学生開寮	1水	即位の日	1土	沖縄県高校総体	1月		1木		1日	
2火	入学式 新入生入寮	2木	祝日	2日		2火		2金		2月	
3水	オリエンテーション 入寮式・開寮式・対面式	3金	憲法記念日	3月		3水	キャリアセミナー(本科4年) 薬物に関する講演会(本科1年)	3土		3火	
4木	健康診断、課題確認試験(数学・本科1年) 教科書販売、ノートPC設定会(本科1年) 図書館利用講習会(本科2年生予定) 航空技術者プログラム履修者説明会	4土	みどりの日	4火	金曜日の授業	4木		4日		4水	
5金	健康診断 教科書販売、ノートPC設定会 (本科1年)	5日	こどもの日	5水	予備日	5金	九州沖縄地区高等体育大会 (~7/21まで)	5月		5木	
6土		6月	振替休日 (寮)開寮	6木	中間試験(複数同時実施科目)	6土	(寮)第2回特大清掃 九州沖縄地区高等弓道大会	6火	水曜日の授業	6金	
7日		7火		7金		7日		7水	予備日	7土	
8月	全学年授業開始 全校集会	8水	キャリア講演会(本科2年) 性に関する講演会(本科1年)	8土		8月		8木	前期期末試験	8日	
9火		9木		9日		9火		9金		9月	
10水	開校記念日(授業日) 交通安全講習会(本科1、2年生)	10金		10月	中間試験実施期間	10水	キャリア講演会(本科3年)	10土		10火	
11木	交通安全講習会 (本科3年生以上・専攻科)	11土		11火	沖縄高専交通安全祈願の日	11木		11日	山の日	11水	
12金		12日		12水		12金	臨時休講日 九州沖縄地区高等体育大会	12月	振替休日	12木	
13土		13月		13木		13土		13火	旧盆	13金	
14日		14火		14金	航空技術者プログラム 履修者選抜事前説明会	14日		14水		14土	
15月(寮)	寮生自衛消防隊説明会	15水(寮)	月例清掃(5月)	15土	専攻科学力選抜	15月	海の日	15木	予備日	15日	
16火		16木		16日	学校説明会(那覇)	16火		16金	予備日 全国高等体育大会(~9/1まで)	16月	敬老の日
17水	インターンシップ説明会(本科4年) カウンセラー講話(本科1年)	17金		17月		17水(寮)	月例清掃(7月)	17土		17火	
18木		18土	(寮)第1回特大清掃 専攻科推薦選抜	18火		18木		18日		18水	
19金		19日		19水	(寮)月例清掃(6月) キャリアセミナー(本科4年) Hyper-QU(本科1~3年)	19金		19月	試験返却日	19木	
20土		20月		20木		20土		20火		20金	
21日		21火(寮)	第1回寮生総会	21金		21日		21水	(寮)学生寮居室点検・清掃	21土	
22月(寮)	学生寮前期避難訓練	22水	こころと体の健康調査(全学生)	22土		22月	公開授業週間	22木	(寮)学生寮居室点検・清掃	22日	
23火	カウンセラー講話(本科2年)	23木	中間試験等対策実践講座 (本科1年)	23日	慰霊の日(休講日)	23火		23金	(寮)閉寮前大掃除 夏季休講前注意事項等の連絡 (HR教室)	23月	秋分の日 (寮)開寮
24水(寮)	月例清掃(4月)	24金	中間試験等対策実践講座 (本科1年)	24月	(寮)居室見学会 学級懇談会・保護者面談	24水		24土	(寮)閉寮 サマースクール	24火	後学期開始
25木		25土	沖縄県高校総体 (陸上・テニス・サッカー)	25火		25木		25日		25水	
26金		26日		26水	キャリアセミナー(本科4年) キャリア教育センター長講話 (本科2年) 性に関する講演会(本科2年)	26金	全国高等学校総合体育大会 (~8/20まで)	26月	夏季休講	26木	
27土		27月		27木		27土	オープンキャンパス (寮)寮見学ツアー	27火	夏季一斉休業	27金	
28日(寮)	開寮	28火		28金		28日		28水		28土	進学相談会 (寮)寮見学ツアー
29月	昭和の日	29水	キャリアセミナー(本科4年)	29土		29月	中学校教員等対象説明会(本校)	29木		29日	
30火	祝日	30木		30日		30火		30金		30月	
		31金	沖縄県高校総体総合閉会式			31水	金曜日の授業	31土			